



令和6年度 日本大学国際関係学部

下期 市民公開講座

統一テーマ

国際情勢を考える

第1回

11/6
(水)

国際政治と宗教、アメリカの大統領選挙と世界情勢

日本大学国際関係学部

教授 松本 佐保

第2回

11/13
(水)

中東情勢の現状と展望

日本大学国際関係学部

准教授 小副川 琢

第3回

11/20
(水)

朝鮮半島「核」危機の歴史・現状・展望

日本大学国際関係学部

教授 鄭 勳燮

第4回

11/27
(水)

どうするロシア?!軍事化する社会とウクライナ戦争の行方

東京大学先端科学技術研究センター

准教授 小泉 悠

時間 18時15分～19時45分

会場 三島駅北口校舎1階
大教室

定員 400名

受講料 無料

申込資格 参加自由



お申し込みはこちら

お問い合わせ先 日本大学国際関係学部 研究事務課 TEL055-980-0808 <https://www.ir.nihon-u.ac.jp/research/public/>

主催 日本大学国際関係学部／日本大学短期大学部(三島校舎)／日本大学国際関係学部国際関係研究所

後援 三島市／三島市教育委員会／裾野市教育委員会／清水町教育委員会／長泉町教育委員会／函南町教育委員会／しずおか県民カレッジ連携講座

令和6年度 日本大学国際関係学部
下期 市民公開講座申込要項

- 1 申込資格：どなたでも参加できます。
- 2 会場：定員 400名
日本大学国際関係学部山田顕義ホール
国際関係学部三島駅北口校舎 JR三島駅北口前
- 3 申込方法：二次元コードからの入力もしくは、別紙の「申込書」に必要事項をご記入の上、郵送またはFAX・メールでお申し込みください。
あて先 〒411-8555 三島市文教町2丁目31番145号
日本大学国際関係学部 研究事務課 市民公開講座係
FAX 055-980-0879
E-mail: ir-kouza3@nihon-u.ac.jp
※「申込書」にご記載の個人情報は適切な方法で管理します。本講座に限定使用し、第三者には開示・提供いたしません。
- 4 問い合わせ先：日本大学国際関係学部 研究事務課
TEL 055-980-0808
- 5 申込期日：各開講日の2日前まで（出席者名簿を作成するため）
- 6 受講料：無料
- 7 注意事項：
 - (1) 講師の病気、悪天候等やむを得ない事情により、講座を延期または中止することがあります。急遽中止する場合はホームページにて掲載いたします。
 - (2) 受講許可の通知はいたしませんので、当日、直接会場にお越しください。
 - (3) 万一の場合（休講など）の連絡をいたしますので、「申込書」には住所・電話番号を必ずご記入願います。
 - (4) 本校では車・バイクの乗り入れはできません。徒歩または電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。



二次元コード



会場 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎

令和6年度 下期市民公開講座のご案内

統一テーマ 「国際情勢を考える」

世界の様々な国際紛争では、武力によりその目標を達成する試みが繰り返されています。同時に私たちの認知領域に対して、偽情報を流し、世論を操る影響工作活動も展開されているといわれています。私たちは、偏狭な意思形成を回避するため、知的に厚みのある議論が必要とされています。

この度の公開講座では、「国際情勢を考える」という統一テーマの下、日本大学国際関係学部、東京大学の先生方にお話をいただくことになりました。宗教と国際政治に関してアメリカ大統領選挙・イスラエルとの関係を含めて松本佐保先生から、中東情勢に関して小副川琢先生、北朝鮮の核・ミサイル開発を軸にした北東アジアの国際関係に関し鄭助燮先生から、そして、ウクライナ侵攻をしたロシア社会の変貌について小泉悠先生から、講演をいただきます。

それぞれの分野のエキスパートの先生方からの情勢分析に触れることにより、一層厚みのある国際関係への興味を深化させていただければ幸いです。

皆様のご来場（国際関係学部、三島駅北口校舎）を心よりお待ちしております。

第1回 11月6日(水)

「国際政治と宗教、アメリカの大統領選挙と世界情勢」

松本佐保／日本大学国際関係学部 教授

今年の11月5日に米国大統領選挙が行われ、その翌日の6日の本講演ではその結果、トランプか、ハリスかも含め、この選挙を動かしたアメリカの宗教票を解説します。トランプにはキリスト教福音派というプロテスタントの一派が政治的影響力を持っています。一方、ハリスの所属教会は、黒人の公民権運動で知られるキング牧師の直弟子ブラウン牧師によって運営されています。この二人の選挙戦の結果が世界や日本に及ぼす影響についても言及します。

またこのアメリカと深く関わるイスラエルについても、そのパレスティナとの戦争等に宗教がどう関わっているかも見たいと思います。イスラエルと米国の結びつきは聖書によってしばしば説明され、イスラエルは米国にとって外交ではなく、内政であると言われます。そのことについても説明したいと思います。そして米国やイスラエルだけでなく、世界ではロシアとウクライナの戦争、またアジアでも存在する宗教と政治の問題が起きています。こうした米国や世界の国際情勢を宗教という観点から検討します。

第2回 11月13日(水)

「中東情勢の現状と展望」

小 副 川 琢／日本大学国際関係学部 准教授

昨年10月以来のイスラエルとハマースの武力衝突が深刻な人道危機をもたらしているなかで、中東情勢が日本でも注目を集めています。日本は原油輸入量の9割以上を中東に依存していることから、同地域の情勢は我々の日常生活と直結していると言えます。そこで、イスラエルの動向を軸にして、敵対しているイランとの多面的な関係などを取りあげることにより、中東情勢の現状と見通しを共に考えていきます。

第3回 11月20日(水)

「朝鮮半島「核」危機の歴史・現状・展望」

鄭 勛 燮／日本大学国際関係学部 教授

冷戦体制終結後の1990年代初期から始まった北朝鮮による核開発問題は、30年の時が過ぎている今日まで続いている。およそ30年間の朝鮮半島「核」危機の歴史は、米国と北朝鮮の間の緊張・対立の歴史でもある。本講座では、北朝鮮の核開発問題をめぐる米朝間の緊張・対立の歴史を、米朝間で結ばれた対北合意の問題点を考察しながら解説する。また、北朝鮮の核開発の現状を概観するとともに、米朝関係の現状についても解説を行う。最後に、こうした北朝鮮の核開発の歴史と現状を踏まえつつ、朝鮮半島「核」危機の展開が北東アジアの国際関係に及ぼす影響について展望を試みたい。

第4回 11月27日(水)

「どうするロシア?! 軍事化する社会とウクライナ戦争の行方」

小 泉 悠／東京大学先端科学技術研究センター 准教授

ロシアによるウクライナ侵略はすでに2年半以上にわたって続いています。戦争がどのような帰結を迎えるのかについては、この間、世界中が注目してきました。

他方、今回注目したいのは、戦争がロシア社会をどう変えたか、です。長期化する戦争によって、ロシア社会は軍事化されつつあります。しかも、その軍事化は目に見えにくい、かなり巧妙なものでもあります。本講話では、「軍事化」とはそもそも何であるのかということから出発して、ロシア社会とこの戦争との関わりについて考えていきたいと思えます。